

普及活動情勢報告（平成28年5月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

農村女性リーダーが研修交流会「そよかぜウォッチング in 南国」を開催



農業技術センターでの研修の様子

5月17日に中央東地区農村女性リーダーが企画した「そよかぜウォッチング」が南国市で開催され、22名の参加がありました。農業改良普及課は研修会の内容や資料の準備など円滑な取り組みに向けて支援しました。

地元農村女性リーダーのハウスゴーヤほ場では、栽培のポイントや誘引方法について活発な質問があり情報交換後、J Aいなほ・介護老人保健施設に移動し、施設の特徴について研修しました。昼食は、複数の農村女性リーダーが活動している「農家レストラン」で活動内容について研修するとともに季節の料理を楽しみました。その後、農業技術センターでは4研究について、各試験場で説明を受け、活発に質疑応答がなされ、勉強になったとの声が多く聞かれました。

農業改良普及課は、農村女性リーダーの自主活動の円滑な実施、新たな活動の提案等、資質向上に向けた取組みを支援していきます。

南国市の3J A合同でシシトウの品質検査を行いました！！



検査員による厳しいチェックを受けるシシトウ

5月11日に、南国市内の3J Aは合同でシシトウの品質検査を行いました。当日は園芸連、J A営農指導員、出荷場担当、シシトウ部会役員13名が参加し、出荷場4か所を巡回して、シシトウの鮮度、規格の厳守、異物混入、パックの溶着具合などを確認しました。また、検査終了後には検査員から結果報告され、全員で共有しました。参加者から「続けることにより品質向上など成果が出ている」という声が聞かれました。

農業改良普及課は、当日の運営や生産状況などを情報提供しました。今後も、南国市シシトウの品質向上に向けた活動を支援していきます。

J A土佐香美露地みかん部会役員会開催支援



役員会の様子

5月12日J A土佐香美山北果樹センターにおいて露地みかん部会の役員会が開催され、生産者9名とJ Aが参加し、5月末の総会に向けて協議しました。

役員会では27年度の活動を振り返り、28年度の活動方針を明確にしていきました。今作は表年にあたることから、共選量の拡大に努め、販売面では機能性表示食品の制度を活用して、選ばれる商品作りに取り組むことになりました。

農業改良普及課は、今後J Aと連携し露地みかん部会の活動が充実するよう支援していきます。

ニラ調整作業機導入に向けた産地パワーアップ事業説明会



産地パワーアップ事業説明会
(須崎青果市場ニラ生産者対象)

5月6日に赤岡青果市場、13日には須崎青果市場へのニラ出荷生産者を対象に、調整作業機の導入に向けた説明会を開催し、計19名が参加しました。

農業改良普及課では事業の要件と導入に向けたスケジュールについて説明しました。

参加者からは、「機械リース会社への支払いはどうなるのか」「調整作業機を入れる作業舎の整備はできないのか」などの意見が出されました。

今後、農業改良普及課では、ニラ栽培が継続できる仕組みを作るため、調整作業機の導入に向けて支援していきます。

更なる環境制御技術の普及を！ ～機器導入農家の掘り起しとステップアップ活動から～



環境制御技術について
アドバイスする会長（右）

5月17～20日、農業改良普及課は南国市施設園芸環境制御技術研究会の会長とともに、環境制御機器の導入意向把握と活用技術のステップアップのため、同研究会員や関心の高いシシトウ、ピーマン農家など17戸を巡回指導しました。

農業改良普及課は、機器導入の意思を確認し、機器の利用方法について助言しました。生産者からは、「換気の目安のために環境測定装置を増やす」「炭酸ガス発生機をもう1台追加したい」「炭酸ガス施用にダクトファンは必要」とステップアップに向けた機器の追加を検討していました。

引き続き農業改良普及課は、次作に向けて環境制御技術の普及を推進し、増収を目指します。

ニラ部会新規就農者等の支援に向けて(産地ビジョンPT分科会)



ニラ産地ビジョン分科会

5月16日に、高齢者の営農継続や新規就農者への空きハウス情報提供のためのPT分科会を開催し、農家チーム員5名が参加しました。

農業改良普及課では、規模拡大や縮小する時期など、前もって意向をつかむための調査の案を提示しました。7月に全部会員対象に調査を行い、10月の総会で報告する日程で進めることとなりました。

参加者からは、「サポートハウスが必要である」「新規就農者が一人前になるには部会員の手助けがいる」などの意見が出されました。

今後、農業改良普及課では、産地ビジョンを具体的に進めるため、分科会等の取り組みを支援していきます。